

グループウェアを活用した校務の効率化

－ 教員一人一台のコンピュータの活用 －

東京都立府中西高等学校 教諭 佐藤 義弘

yoshi-sato@hi-ho.ne.jp

<http://www.hi-ho.ne.jp/yoshi-sato/>

キーワード：高等学校、校務、グループウェア、教員一人一台

1. はじめに

東京都立府中西高等学校 2003 年より 3 年間「IT を活用した教育推進校（通称：IT 推進校）」として東京都教育委員会より指定を受け、さまざまな情報機器が導入された。

特徴的なものとして、生徒用ノートパソコンやプロジェクターの他、一人一台の教員用ノートパソコンとグループウェアが導入された。これらの設備を活用した校務の効率化について述べる。

2. 「IT を活用した教育推進校」

東京都立府中西高等学校は府中市の西、国立市寄りの、中央道国立府中インター近くに所在する普通科高校である。3 学年 8 学級と、都立高校としては規模が大きく、部活動や学校行事に活発に取り組む中堅校である。

今までにも部活動推進校や総合的な学習の時間先行試行校といった先進的な取り組みをしてきた本校であるが、2003 年より 3 年間「IT を活用した教育推進校（通称：IT 推進校）」として東京都教育委員会より指定を受け、さまざまな情報機器が導入された。

IT 推進校のねらいは『基礎・基本の定着、メディアリテラシーの育成を図るとともに、学習指導の個別化の徹底、得意分野の伸長、主体的な学習活動などに IT を徹底的に活用し、学習指導方法や学び方の新たなスタイルを研究し、「授業革新」を行う』と東京都教育委員会により提示された。しかし具体的な利用イメージは提示されず、具体的には学校で考えて活用する事となった。

生徒用ノートパソコンやプロジェクターなどの授業用機器とともに、教員にも一人一台のノートパソコンが導入され、ファイル共有のためのファイルサーバ（生徒と共有）や教員間の情報共有のためのグループウェアサーバも導入された。

3. グループウェア サイボウズ 6

本校に導入されたグループウェアは、サイボウズ社の「サイボウズ 6」である。このサイボウズは、グループウェアのために用意された Linux サーバにインストールされ、職員室や教科準備室に用意された専用の有線 LAN を使って利用する。この LAN は「校務系」と呼ばれ、生徒が利用する「教育系」の LAN とは別系統で、外部とも接続できないように設定されている。そのため、「教育系」の LAN には教材のような生徒にも見せることができるデータを置き、「校務系」の LAN には成績や個人情報などのデータを置くこととした。

サイボウズの基本的な機能として「連絡とメモ」「スケジュール」「設備予約」「電話メモ」「閲覧状況」「ToDo リスト」「掲示板」「ファイル管理」「アドレス帳」「ユーザ名簿」がある。これらの機能のうち、効果的に活用されたのは「連絡とメモ」「設備予約」「ファイル管理」の 3 つがあげられる。「スケジュール」と「掲示板」機能もある程度活用された。他の機能については、学校において活用することが難しい機能と思われる。

「電話メモ」は外部からの電話を多く受ける企業では活用できる機能であるが、学校においては代わりに受けることなく、担当者が直接受けることになるため活用場がない。「閲覧状況」は利用状況の掌握に使われるが、統計的な情報を得ること以外の活用方法がなかった。「ToDo リスト」は個人的に利用していることはあっても、組織的に活用することはなかった。

4. グループウェアの活用場面

実際によく活用されたものと活用事例を紹介する。

(1) 連絡とメモ

連絡とメモは、サイボウズの上でのメールシステムである。職員間で周知しなければならない文書はこの「連絡とメモ」機能を用いて配布されている。提出の必要のある文書も、様式のファイルを添付して送ることができ、効率よく文書作成ができるため、受け取った側にとってもメリットがある。

この「連絡とメモ」を一番活用しているのは、副校長である。副校長には TAIMS (Tokyo Advanced Information Management System: 東京都高度情報化推進システム) の端末があり、職員に伝達すべき文書が多数やってくる。この文書を、サイボウズを使って配布することで、印刷する手間を省くことができる。もらう側も、紙では検索ができないが、電子データであれば必要に応じて検索することが可能になり、資料の整理が格段に楽にな

る。双方にメリットがあり、副校長も積極的に協力してくれたため、有効に活用することができた。

サイボウズの上では、この「連絡とメモ」機能と「掲示板」機能が非常に似通っているため、「連絡とメモ」機能が利用されることが多かった。「掲示板」機能は企画調整会議の議題提出など、限られた場面での活用となった。掲示板は一つの掲示板が1スレッドとなり、そこに返信を書き込む形になるのに対し、メールは個々のメールが1スレッドとなるため、手軽に使いやすく情報共有に向いていることが理由であると考えられる。

(2) 設備管理

サイボウズの機能の中で、もっとも早くから活用が定着したのがこの機能である。教員用パソコンとグループウェアが導入されてすぐに、特別教室や施設・設備などの予約管理簿を廃止して、グループウェアで管理することとした。同時に導入されたプロジェクターや生徒用ノートパソコンの予約・管理もこの「設備管理」機能を用いることとした。ほとんどの職員が教室や視聴覚機器の予約をするために、グループウェアを使うこととなった。今までは職員室にある予約管理簿に記載して予約をしていたが、グループウェアの利用により教科準備室などからでも予約が可能になったため、予約状況を容易に確認し、手軽に活用できるようになった。

この設備管理機能はスケジュール機能とも連動しているため、利用教室・機器・参加者を一度に設定することが可能になり、会議が重なるなどの事態を防ぐこともできるようになった。学校においては、時間割によってスケジュールが正確に刻まれているため、スケジュール機能単体での利用はあまり進まなかったが、会議やイベントなどの調整に、「設備管理」機能が軸となり有効に活用することができた。

(3) ファイル管理

学校においては、校務のデータファイルはフロッピーディスクやMOディスクなどで保管され、担当者が保管するケースが多く見られる。最近では大容量のUSBメモリなども用いられている。しかし、このようなリムーバブルメディアを利用すると、紛失などのリスクがあるとともに、情報が個人に帰属するため、情報共有が進まず効率が上がらない。そのため、分掌などで作成した文書はできるだけサイボウズの「ファイル管理」機能を用いてアップロードするようお願いした。分掌によって利用率は大きく違うが、利用の進んでいる教務部では、ファイルの引き継ぎなどの必要もなくなり、時系列に並べて作業手順を検討するなど、新たな活用方法も取り入れられて校務の効率化が図られている。

「ファイル管理」機能は、サイボウズがWebベースのグループウェアであるため、ダウンロード・アップロードという操作が必要になる。インターネットのヘビーユーザでない一般的なユーザである教員にとっては、アップロード・ダウンロードという操作は普段したことのない操作であり、概念としても理解できず、大変難しいものであった。ファイルを上書きでアップロードし、ほかのユーザが入力したデータを消してしまうことも何度もあった。1つのファイルに対して複数のユーザがデータを入れるという使い方にはあまり向かないようである。

「ファイル管理」にはファイルロック機能や履歴管理機能もあるため、それらの機能を有効に設定し、できる限りトラブルが出ないように運用面で配慮した。しかし、ダウンロードせずファイルをブラウザ上で開いてしまうケースや、ファイルロックをかけたままで他のユーザが使えなくなるケースなど、仕組みを理解できずにトラブルとなるケースもあった。

利用当初は利用者スキルがなかなか向上せず、活用が進まない状況もあったが、最近ではスキルの向上により大きなトラブルは発生しなくなりつつある。

4. さらなる活用のために

グループウェアを用いたコミュニケーションの特徴として、「自分の都合のよいときに発信して、都合のよいときに受信する」ということがあげられる。学校では時間割によって毎日の時程が進行する。空き時間もあるが、同一の分掌などで集まることは不可能である。このような状況でグループウェアを活用すると、会議や打ち合わせの時間を減らすことが可能になり、効率がよく、より密な連携を築ることが可能になる。そのためには全員が必ず毎日利用することが前提条件となるが、本校においてもまだそこまでの利用率に至っていない。

グループウェアを活用した校務の効率化には、利用率向上が不可欠である。利用率の向上には利用するだけのメリットがある「キラーコンテンツ」が必要である。成績処理や週案作成システムなど、利用者にとってメリットのあるコンテンツを作成し普及を促したが、毎日の利用者は約8割程度で、全員が毎日利用するまでには至っていない。しかし利用率自体は年々向上しているため、連絡事項は紙で配布せず電子データにすべて置き換えるなど、もう一歩進んだ利用に取り組むことも検討する時期であると考えられる。

生徒とのコミュニケーションの時間や教材研究の時間など、教員にとっては時間はいくらあっても足りないものである。グループウェアを用いることで校務の効率化を図り、生徒や授業により多くの時間を割くことができるように今後も活用し研究していきたいと考えている。